連合駿台会報

No.357　令和4年9月15日発行
発行・編集　連合駿台会
発行人　広報委員長・齋藤柳光
編集人　事務局・矢嶋まゆ子
〒101-0052千代田区神田小川町三―二二
明治大学「紫紺館」内
電話（〇三）三二九六―四七四七
印刷　有限会社　美　創

北野　大氏

連合駿台会七月特別例会

「地球温暖化とエネルギー問題」

明治大学校友会会長　北野　大氏

連合駿台会七月例会を、令和四年七月二十一日（水）十七時三十分より、ロイヤルパークホテル「有明」で、北野大校友会長をゲストスピーカーとして開催しました。

開会に先立ち、田村駿会長から次のような挨拶がありました（挨拶主旨）。

本日は大変暑い中、暑気払い例会にご参加いただきありがとうございました。コロナウイルス感染も、第六波がようやく下火になって来て、以前の生活に戻りつつあるのかと安心しておりましたのに、この間にロシアのウクライナ侵攻があり、その影響も受けて大幅な円安となり、急激な物価上昇になりました。さらに安倍元総理が凶弾に倒れるなど、世の中が目まぐるしく変化してきております。

コロナウイルスも株が変化してきており、今回は感染力が強いということで、本日の東京での感染者は三万人を超えているという情報がありました。皆様方も早く四回目のワクチンを接種され、また熱中症対策ともども細心の注意を払っていただき、この暑い夏を元気に乗り越えていただきたく思います。

さて、五月の総会以降での出来事としては、春の東京六大学野球で、明治大学は立教を延長線で破り、六季ぶり通算四十一度目の優勝を、完全優勝で決めております。また、先ほどの参議院選挙の結果は、ご承知の通り自民党の圧勝でしたが、選挙戦の多忙な六月十九日、岸田総理大臣が明治大学に来校され、柳谷理事長と懇談されました。他大学出身の現役の総理が訪問されることは、明治大学にとっても初めてのことだそうです。

当会の新入会員の勧誘につきましては、総会でもお願いしましたが、先ほどの理事会で十人の方が承認されました。今後とも皆様方のご協力をお願い申しあげます。

本日の講師・北野先生は私の同期ですが、大変な人気者で、お人柄も素晴らしい方です。先生のお話をご期待し、楽しい時間を過ごしたいと思います。本日は、ご参加いただき、本当にありがとうございました。

当日の講演の主旨は以下の通りです。

＊

ＳＤＧｓの歴史的背景

いま「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals：SDGs）という言葉がよく使われているが、私は「開発」より「発展」のほうがいいのではないかと思う。「地球温暖化」のことを「global warming」といい、いかにも暖たかくて住みやすそうだが、実際の温暖化の問題はそんな甘いものではないのだから、これも誤訳で「加熱」としたほうが相応しいと考えるが、一度使われてしまうと、なかなか変えられないものだ。

ＳＤＧｓ誕生の背景には、ローマクラブというグローバリスト組織が、地球と人類が直面する危機に取り組むため設立されたことに始まる。一九七二年『成長の限界』という本を出版し、このままの人口増加や資源消費が続くと、あと百年で地球の成長は限界に達するという警鐘を世界に鳴らした。

一九八七年「環境と開発に関する世界委員会」（委員長：ブルントラント・ノルウェー首相（当時））が公表したレポート「Our Common Future：我ら共有の未来」は、持続可能な開発の目標に向けて世界の国々を導く手助けをするという考えを中心に「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発＝持続可能な開発」の概念が打ち出された。持続可能な開発は、将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現世代のニーズを充足させる開発と定義、これを達成するためには、経済成長、社会的包摂、環境保護という三つの主要素を調和させることが不可欠とされた。

そして一九八九年、ベルリンの壁が崩壊され、東西冷戦が終結されると、地球環境問題は〝共通認識〟となった。では、地球環境問題の「定義」とはどういうことかというと、これは原因および被害が複数の国（地域）にまたがるため、一つの国のみの対策では対処し得ないような問題を抱えている。主として先進国に起因する問題とその原因は工業化であり、他方、開発途上国に起因する問題とその原因は人口の急増だ。

一九九二年六月国連環境開発会議（ＵＮＣＥＤ）は、ブラジルのリオデジャネイロで、「地球サミット」が開催された。当時のほぼ全ての国連加盟国百七十二ヵ国の政府代表が参加し、そのうち百十六ヵ国は国家元首が参加。その他、ＮＧＯ代表二千四百人も参加するという一大イベントとなった。現在の持続可能な開発に関する行動の基本原則である「リオ宣言」と、これを実行に移すための行動綱領としての「アジェンダ21」を採択した。

その後、一九九七年採択の「京都議定書」では、気候変動に対する国際的な取り組みを定め、世界各国が協力して地球温暖化を防止するため、二〇〇八年から二〇一二年までの期間に先進国の温室効果ガス排出量を五％減少（一九九〇年度比）させることを目標とし、その後、二〇〇五年に発効されている。

一九九〇年以降には、飢餓・貧富の差、子どもの教育の機会が奪われる、ＨＩＶやＡＩＤＳ・マラリアといった感染症の蔓延、性別による労働環境の不平等、自然災害やジェノサイド（集団虐殺）などの問題が、特にアフリカやアジアをはじめとする開発途上国で深刻になっていた。そこで国連が中心となって世界各国に呼びかけ、すべての国や地域の人々が、公正で平和な暮らしを送れることを目的としたのが、二〇〇〇年九月に行なわれた国連ミレニアム・サミットにて採択された目標だ。ＭＤＧｓ（ミレニアム開発目標）は二〇一五年を年限として、すべての国や地域の人々が、公正で平和な暮らしを送れることを目的として、改善するための８つのゴールと21のターゲットが作られた。

このＭＤＧｓの後継として、二〇一五年九月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための２０３０アジェンダ」に記載されたものがＳＤＧｓ。地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」世界の実現を目指して、二〇三〇年までに達成すべき持続可能な開発目標。17のゴール・１６９のターゲットから構成されている。

SDGsのもうひとつの捉え方 – 5つのP

SDGsには17の目標があるが、それをさらに5つの「P」のキーワードで分けて考えると、よりイメージがしやすくなる。これはPeople（人間）、Prosperity（豊かさ）、Planet（地球）、Peace（平和）、Partnership（パートナーシップ）の頭文字をとったものを意味し、それらをさらに細分化したものが17のゴールになる。

地球環境の維持と人類社会の持続可能な発展を考えると、次のようになる。

① サーキュラーエコノミー（循環型経済）

消費された製品を資源としてリサイクルする。その循環は「資源の抽出→製造→消費→リサイクル・再利用（＝資源の抽出）→製造」。製造の段階からリサイクルや再利用がしやすい設計にすることで、廃棄物を最小限に抑え、新しい資源の利用も最小限にすることができる。

② シェアリングエコノミー（共有経済）

インターネットを介して、個人や企業が持っているモノ・場所・スキル・時間などを貸し借りする経済モデル、またはそのサービスのこと。今ある資源・資産を活かして廃棄物が出るのを防ぎながら、同時に経済効果を生むという点で、サーキュラーエコノミーの一例と言える。

これからは「所有から利用」の時代になる。

気候変動問題の変遷と温室効果ガス

SDGsの5つの「P」の3番目、「Planet」の中に、「気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る」というものがある。

皆さんは「気候」と「気象」の違いをご存知だろうか？「気象」というのは、その日その日の天気（気温・湿度・雨量など）の状態のことで、気象予報士という仕事もある。しかし「気候」というのは、気象状況の三十年間程度の平均値のことを指す。

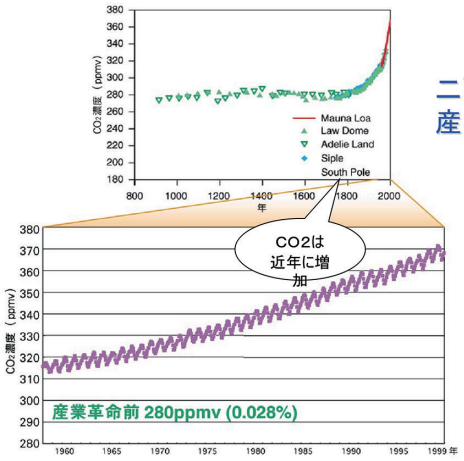
気候変動問題の起源をたどってみると、十九世紀半ばに、フランスのジョゼフ・フーリエが温室効果ガス、特に二酸化炭素と水蒸気が地表を温暖化すると主張、地球の気候を変える可能性を指摘した。これらの研究をベース、スウェーデンのスヴァンテ・アレニウスは自身の著書『宇宙の成立』の中で、産業革命において工場から発生した二酸化濃度が増えると、地表面温度を上昇させ、二酸化炭素濃度が二倍になれば気温が五～六℃上昇する可能性があることなどを述べた。この頃は、二酸化炭素による冷害防止に触れた、宮沢賢治の童話『グスコーブドリの伝記』（冷害による飢饉で両親をなくし、森を追われた少年ブドリが、カルボナード火山島が爆発したら、二酸化炭素が大気中に撒き散らされ、世界の平均気温が五℃くらい暖かくなるだろうというクーボー大博士の話を聞いて、自ら犠牲となって大噴火を起こさせ飢饉を救うという話・一九三二年刊）などに見られるように、一部の人には浸透していたものの、こういった科学知識が一般に広く認知されるには至っていなかった。

大気中の二酸化炭素濃度の変化を見ると、産業革命以降増加し続けているが、真っすぐに上がっているのではなく、細かく波を打ちながら上昇している〈4ページ図参照〉。この二酸化炭素濃度のグラフは、ハワイ・マウナロア山の観測データだが、規則正しくギザギザになるのは、植物の光合成による二酸化

炭素の吸収量が季節的に変化していることを示しており、夏には二酸化炭素の吸収量が増えて減少し、冬は植物の呼吸や分解によって上昇するためである。

では、なぜ、最近になり注目を浴び始めたのか？　それは、被害の顕在化と東西冷戦構造の崩壊にある。気候変動に関する政府間パネル（ＩＰＣＣ）第五次アセスメント報告には次のようにある。

大気中の二酸化炭素濃度の変化



二酸化炭素濃度は、
産業革命以降増加

1750年：280 ppm
↓
2020年：413 ppm

人類誕生以来の最高値

① 気候システムに対する人為の影響は明確。最近の人為の温暖化、ガスの排出は歴史的に最大。最近の気候変動は、人間、自然システムに広範な影響を与えている。

② 温暖化ガスの排出が継続すれば、気象システムのすべての要素の温暖化と長期的変化が起こり、人類および生態系に深刻、不可逆的な結果をもたらす可能性が増大しよう。

③ 適応（adaptation）や、抑制（mitigation）は、気候変動のリスクを管理するための相互補完的な戦略である。今後十～三十年間の排出の抑制により、二十一世紀およびその後の気候リスクを減少し、効果的な適応の可能性を拡大し、長期的な抑制のコストとその困難さを減少し、持続可能開発への温暖化に対し抵抗力を持った道程を提供する。

④ 多くの適応と抑制の政策オプションが温暖化対策を支援しえるが、どの一つもそれだけで十分というものはない。

これに基づき、京都議定書の後継として、パリ協定が採択された。いずれも、地球温暖化を抑制するために二酸化炭素（正確には温室効果ガスだが、大半が二酸化炭素）をいかに世界中で減らしていくか、という条約・協定である。パリ協定とは下記のようなことを目標にあげている。

① 世界共通の長期目標として二℃目標の設定。一・五℃に抑える努力を追求すること

② 主要排出国を含む全ての国が削減目標を五年ごとに提出・更新すること

③ すべての国が共通かつ柔軟な方法で実施状況を報告し、レビューを受けること

国連気候変動枠組条約（UNFCCC）とパリ協定の関係について

国連気候変動枠組条約（UNFCCC）

（1992年採択、1994年発効。日本は1993年に締結）

○全国連加盟国（197ヶ国・地域）が締結・参加。
○大気中の温室効果ガス濃度の安定化が究極の目的。
○全締約国の義務 ⇒ 温室効果ガス削減計画の策定・実施、排出量の実績公表。
○先進国の追加義務 ⇒ 途上国への資金供与や技術移転の推進など。
○CBDRRC（Common But Differentiated Responsibilities）の考え方→先進国は途上国に比べて重い責任を負うべき。

＜条約の目的を達成するための具体的枠組み＞

京都議定書（2020年までの枠組）

・UNFCCC締約国のみ署名・締結可能（議定書24条・25条）
・UNFCCCを脱退すれば、京都議定書も脱退（議定書27条）

○先進国(附属書Ⅰ国)のみ条約上の数値目標を伴う削減義務
・2001年　米国離脱宣言
・2002年　日本批准
・2005年　京都議定書発効

【第一約束期間】（2008年～2012年）
・日本(▲6%(90年度比))、EU(▲8%(同))、ロシア、豪州等に数値目標。
・カナダは2012年に議定書自体から脱退。

【第二約束期間】（2013年～2020年）＜未発効＞
・EU、豪州等に数値目標。
・日本、ロシア、ニュージーランドは不参加。

パリ協定（2020年以降の将来枠組）

・UNFCCC締約国のみ署名・締結可能（協定20条・21条）
・UNFCCCを脱退すれば、パリ協定も脱退（協定28条）

○全ての国に削減目標提出・削減義務
・2015年11月　COP21パリ協定採択
・2016年4月　日本署名
・2016年11月　パリ協定発効
・2016年5月より、パリ協定特別作業部会（APA）等においてUNFCCC全加盟国（197ヶ国・地域）により、パリ協定の実施指針（案）を交渉開始。
・2018年12月　実施指針採択予定。

④ 適応の長期目標の設定、各国の適応計画プロセスや行動の実施、適応報告書の提出と定期的更新
⑤ イノベーションの重要性の位置付け
⑥ 五年ごとに世界全体としての実施状況を検討する仕組み（グローバル・ストックテイク）
⑦ 先進国による資金の提供。これに加えて、途上国も自主的に資金を提供すること
⑧ 二国間クレジット制度（ＪＣＭ）も含めた市場メカニズムの活用

パリ協定と京議定書の違いは、大きく言って、対象国が違うことと、目標が違うことだが、パリ協定の①の目標に対しては、今世紀末までに少なくとも三℃度は上昇すると予想する科学者も多く、実現には懐疑的であるという意見も少なくない。

温暖化から再生可能エネルギーへ

いま、地球の温暖化はどんどん進んでいる。

① 一八八〇年から二〇一二年にかけ、地球の平均気温は摂氏〇・八五℃上昇。現状における温室効果ガスの濃度と排出の継続を勘案した場合、一八五〇年から一九〇〇年の期間を基準とする地球の平均気温上昇は、一つを除くすべてのシナリオで、今世紀末までに摂氏一・五℃を上回る。
② 平均気温が一℃上昇するごとに、穀物の収量は約五％ずつ低下。一九八一年から二〇〇二年にかけ、トウモロコシや小麦その他の主要作物の収量は全世界で毎年四千万トンと、大幅な減少を示している。
③ 海水温が上昇し、雪氷の量が減少した結果、海面が上昇。一九〇一年から二〇一〇年にかけて、温暖化で海洋が広がり、氷が融けることで、世界の平均海水面は19センチ上昇、平均海面上昇は二〇六五年までに24～30センチ、二一〇〇年までに40～63センチに達すると予測。
④ 北極の海氷面積は一九七九年以来、どの十年間を取っても縮小を続けており、各十年間の縮小幅の平均は１０７万平方キロにもおよぶ。

約五十万年前に、北京原人が最初に火を使用したころから始まった人類のエネルギー利用は、十八世紀以降、化石燃料（石炭・石油・天然ガス）の使用を経て、二十世紀には水素、原子力へと移った。百年あまりの間に原子力の利用は加速度的に進んだ。

現在、エネルギーに関しては五つの課題がある。第一にエネルギー資源の枯渇性、第二にエネルギー資源の入手性、第三にエネルギー資源の価格、そして第四に消費に伴う環境汚染、第五に資源開発に伴う環境破壊である。ＩＥＡ（国際エネルギー機関）によると、二〇二〇年時点、電気のない生活を強いられている人は七億三三〇〇万人（全人口のほぼ一〇％）、二〇三〇年予測でも六億七〇〇〇万人に上る。この現状を踏まえ、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」ということを考えれば、二〇三〇年までに、安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保すること、そして世界のエネルギーミックスにおける「再生可能エネルギー」の割合を大幅に拡大させる必要がある。

再生可能エネルギーとは、資源が再生されるエネルギーと定義され、太陽光・太陽熱・風力・潮汐（ちょうせき）・地熱などの自然エネルギー、生物を利用したバイオマスーエネルギー、廃棄物発電などのリサイクルーエネルギーに大別される。供給量は少ないが、資源枯渇の心配がなく、環境への影響が小さい。再生可能エネルギーがここまで重視されるのは、そのメリットが大きいためだが、同時にデメリットも存在する。

★メリット
① エネルギー源が枯渇しない
② 温室効果ガスの排出量が少ない
③ エネルギーの供給場所を問わず、各地どこでもすぐに調達できる
④ これまで発生していた有害物質（焼却灰など）、廃棄物（放射性廃棄物など）が発生しない
⑤ 従来の発電所などとは違い、施設設計が

簡単。これに伴い修理も安くできる

⑥ 日本各地にたくさん設置することで一部に不具合が生じても、影響範囲が少ない
これは、災害時などにも有用であり、エネルギーがストップし続ける期間を圧縮できる

⑦ 従来の発電以外の設備投資になるため、需要と供給が発生し、製造産業となる

★デメリット

① 太陽光、風力など天候によって発電量が大きく変動するため不安定

② 依然としてまだ再生可能エネルギーによる発電コストが高い

③ エネルギー資源、さらに発電所の設置に適した場所を調べる手間、コストがかかる

④ 別の用途で使用している業者との紛争可能性（例：地熱発電と温泉などの観光業）

⑤ 従来の発電方法と違い、発電規模が小さく、価格が高くなりやすい

これらも踏まえ、今後の日本のエネルギー対策への提言としては、再生可能なエネルギーの拡大のため、買い取り、補助金などを出す、また勤務時間や夏休みのシフトやサマータイムの導入、ライフスタイルの変換など社会システムの見直しを図る、節電機器の開発と国民の徹底的な節電マインドを促す、電気料金の時間帯による変更を図る、ことなどを勧めたいと思っている。

【講師略歴】

北野　大（きたの・まさる）

日本の化学者、教育者。一九四二年東京都足立区出身。三男。兄に北野重一、弟に北野武（ビートたけし）、甥に北野篤、姪に北野井子がいる。

足立区立第四中学校、東京都立上野高等学校を経て明治大学工学部工業化学科卒業。もともとは英語を学びたく千葉大学文理学部英文科にも合格していたが、母親の命で明治大学工学部工業化学科に進んだ。

卒業後は大正製薬に入社し、研究部防虫課で殺虫剤製品（現在は白元に部門譲渡）の品質改良などに従事した。その後、学者への道を目指して退職し、東京都立大学大学院工学研究科工業化学専攻修士課程に入学。

一九七二年に博士課程修了。

修了後は分析化学の専門家として、財団法人化学品検査協会（現：一般財団法人化学物質評価研究機構）に勤務し、主任研究員を務め、一九九四年に淑徳短期大学教授に就任。一九九六年から四年制として改組した淑徳大学国際コミュニケーション学部教授を経て、二〇〇六年から明治大学理工学部応用化学科専任教授に就任し、二〇一三年三月で定年退職。

二〇〇四年九月からは江戸川総合人生大学の学長に就任、行政の生涯学習をテーマに現在まで関わる。二〇一三年四月からは淑徳大学総合福祉学部教授に就任。二〇一四年四月からは淑徳大学人文学部表現学科教授に就任。

二〇一七年四月に秋草学園短期大学の学長に就任。

二〇一九年七月に明治大学校友会会長に就任。

【受賞歴】

・二〇〇四年　日本分析化学会技術功績賞
・二〇〇六年　環境科学会学会賞

【主な単著】

『マー兄ちゃんの西の国から―世界おもしろ発見!!』（一九八八年・ワニブックス）、『なぜか、たけしの兄です』（一九八八年・主婦と生活社）、『いま、飲み水が恐ろしい!―果てしなく汚染されている〝水〟の新事実』（一九九一年・主婦と生活社）、『僕が「化学者」になった理由―マー兄ちゃん、教育・家族・環境を語る』（一九九四年・PHP研究所）、『世界おもしろ発見!―マー兄ちゃんの海外遊泳術』（一九九四年・PHP研究所）、『農薬・添加物こうすれば安心して食べられる』（一九九五年・主婦と生活社）、『飲み水は、いま!』（一九九六年・研成社）、『ドクター北野の地球なんでも好奇心』（二〇〇一年・日本放送出版協会）、『北野家の訓え強く、たくましく生きる』（二〇〇三年・PHPエル新書）、『教育のプロが語る「できる子ども」は環境で決まる』（二〇〇五年・ダイヤモンド社）

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。（敬称略）

髙木（たかぎ） 哲（さとし）
昭和五十五年・政経学部卒
㈱アート・ラボ
代表取締役
京都府京都市在住

大谷（おおたに） 正則（まさのり）
昭和五十八年・工学部卒
伊藤組土建㈱
代表取締役社長
北海道札幌市在住

小池（こいけ） 徹（とおる）
昭和六十一年・法学部卒
東亜建設工業㈱
執行役員専務
東京都新宿区在住

佐藤（さとう） 陽子（ようこ）
平成十三年・農学部卒
㈱日光電機
代表取締役
東京都東村山市在住

濱田（はまだ） 憲孝（のりたか）
平成九年・法学部卒
濱田総合法律事務所
代表弁護士
東京都練馬区在住

野口（のぐち） 一哉（かずや）
昭和六十一年・法学部卒
日興ビジネスシステムズ㈱
代表取締役社長
東京都世田谷区在住

川島（かわしま） 英広（ひでひろ）
昭和六十一年・政経学部卒
㈱マルタイ
代表取締役社長
福岡県春日市在住

佐野（さの） 直人（なおと）
平成十四年・政経学部卒
リソル㈱
代表取締役社長
神奈川県秦野市在住

◆明大ニュース

●明治大学校友会 二〇二二年度定時代議員総会を開催

明治大学校友会は七月三十一日、駿河台キャンパス・アカデミーコモンで二〇二二年度の定時代議員総会を開催した。代議員総会は校友会の会則が定める重要事項を審議・決定する会議で、当日は代議員総数六百十人中、委任状を含め五百九十九人が参加。大学からは来賓として、大六野耕作学長をはじめ役員が出席した。

物故校友への黙とうの後、徳丸平太郎副会長の開会の辞でスタートした総会は、冒頭、向殿政男名誉会長が登壇。三年ぶりの定時代議員総会開催に全国から大勢の代議員が参集したことへの謝辞を述べた上で、「私は明治大学と共に歩んできた。今後も明治大学への恩返しの気持ちで校友会活動をしていきたい。皆さんも『明治はひとつ』でがんばりましょう」と締めくくった。

続いて、北野大会長が登壇し、大学から校友会へのさまざまな協力に謝辞を述べた。また、校友会の目的は「母校の支援」「校友相互の親睦」はもちろんのこと「校友相互の支援」も大事であるとし、「紫紺ナビ―明大校友のお店マップ―」の積極的な利用や、若手・女性校友も参画しやすい校友会活動への協力を呼びかけた。

続いて、来賓を代表して大六野学長が祝辞を述べるとともに、新しい大学の在り方などについてあいさつした。

その後、議長団・議事録署名人らを選出して議事に入り、二〇二一年度会務の報告と決算、二〇二二年度事業計画・予算などについて審議し、それぞれ提案どおり承認された。

議事終了後は、卒業生校友表彰が行われ、親子孫三世代で本学を卒業した二組の校友をそれぞれ表彰した。このほか、来年度愛知県で開催される全国校友大会の案内も行われた。

最後は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、校歌斉唱ではなく校歌静聴とし、松本穣副会長が閉会の辞を述べ、総会は盛会のうちに終了した。

●二〇二二オープンキャンパス
三年ぶり対面開催、約二万五千人が来場

明治大学の各キャンパスを受験生らに開放し、大学生活の一端に触れてもらう盛夏の恒例行事「オープンキャンパス」が八月、駿河台・生田・中野の三つのキャンパスで開催された。

対面形式が三年ぶりとなった今年は、八月二日、三日に駿河台キャンパス・中野キャンパス、八月六日、七日に駿河台キャンパス・生田キャンパスに分かれて実施された。

全日程とも事前参加登録制で行われ、四日間で約二万五千人の高校生や保護者らが来場。一部ガイダンスは動画の放映に切り替え、その代わりに好きなタイミングで視聴できるようにするなど、過去二年間オンライン形式で開催したノウハウも活用した形で行われた。

従来通り対面で行われた模擬授業や、現役明大生によるトークライブ、キャンパス見学ツアーなどに加え、研究室・ラボツアーやゼミの取り組みなどを学生が趣向を凝らして紹介する独自企画についても多くの参加者でにぎわった。

受験生らは、多彩なプログラムへの参加や現役学生・教職員との触れ合いを通じて、大学生活への期待と、明治大学での学びに関心を深めた様子だった。

●進学ブランド力調査二〇二二
「志願したい大学」二年連続二位

リクルート進学総研が七月十四日に発表した「進学ブランド力調査二〇二二」ランキング「志願したい大学」（関東エリア）で、明治大学が昨年に続き二位となったことがわかった。男女別では男子が三年連続で一位（女子四位）、文理別では理系で一位（文系三位）、分野別では「情報」で一位となるなど、明治大学が高校生から高い注目を集めていることが明らかになった。

この調査は、リクルート進学総研が大学に対する志願度、知名度、イメージを把握することを目的に行っていて、今年で十五回目。二〇二二年四月に関東・東海・関西の各地区の高校三年生約十二万人の回答から集計された。

今回の明治大学の結果について、リクルート進学総研所長の小林浩氏は、「今年の傾向として、理工系全般や文理横断・融合型の情報といった分野の人気が高まっています。明治大学に興味を持った高校生からのフリーコメントでは、『関東の総合大学で農学部がある』や『情報コミュニケーション学部がある』といった回答が見られます。いち早く取り組んだ文理横断型の情報系学部や、農学といった他にはあまりない学問領域が、わかりやすい学部名称となっていることで、高校生の興味関心が高まっているように思います」と分析した。

志願したい大学トップ5は、一位（昨年一位）が早稲田大学、三位が青山学院大学（同三位）、四位が立教大学（同四位）、五位が慶應義塾大学（同八位）。

●国家公務員総合職試験
明大から合格三十四人

人事院は六月二十日、中央省庁の幹部候補を目指す国家公務員採用総合職試験の二〇二二年度最終合格者を発表した。明治大学からは三十四人（前年度二十五人）が合格した。

明大の合格者の試験区分別内訳は、院卒者試験で「行政」二人、「農業科学・水産」三

人、「農業農村工学」一人、「森林・自然環境」一人の計七人。大卒程度試験で「政治・国際」七人、「法律」四人、「経済」四人、「デジタル」一人、「工学」三人、「農業科学・水産」五人、「農業農村工学」二人、「森林・自然環境」一人の計二十七人だった。

二〇二二年度試験の申込者数は一万五千三百三十人（前年度比一〇二〇人増）、合格者数は千八百七十三人（同三十九人増）で、倍率は八・二倍（同〇・四ポイント増）となった。

出身学校別の合格者数内訳では、国公立大学千三百二十六人、私立大学五百三十一人、その他（外国の大学等）十六人。合格者の出身学校数は全体で百五十九校だった。

●国際連携本部

ウクライナ語でキャンパスツアー

国際連携本部は七月二十日、日本国内在住のウクライナ人とウクライナ人避難民を対象として、明治大学駿河台キャンパスを紹介するキャンパスツアーを開催した。ツアーには六人が参加し、リバティタワー二十三階の岸本辰雄ホールをはじめ、十七階のスカイラウンジ暁（学生食堂）や教室などを見学した。

国際連携副本部長のシェアマン・スザンネ法学部教授がツアーガイドを務め、通訳者とともに一行を案内した。教室では英語とウクライナ語併記で作成されたスライドを用いて大学紹介が行われた。その後、リバティタワー内の中央図書館、アカデミーコモン内の博物館、マンガ図書館である米沢嘉博記念図書館を巡り、各施設の担当スタッフが館内の施設や展示品などを紹介した。

ツアーを終え、参加者からは、「素晴らしいツアーを企画してくれてありがとう」という感謝の言葉とともに、「明治大学で勉強するためにはどうすればよいか」という質問が多数寄せられるなど、駿河台キャンパスの魅力を存分に伝える機会となった。

★ウクライナ避難民を受け入れ

明治大学は、軍事侵攻を逃れ日本へ入国し、学びの継続を希望するウクライナの学生に学びの場を提供することを決定した。（一財）パスウェイズ・ジャパンおよび日本国際基督教大学財団と共同で、「日本・ウクライナ大学パスウェイズプログラム」の枠組を通じて受け入れを行うこととなり、すでに学生募集を終え、秋学期から科目等履修生として本学での学びが開始される。この枠組で受け入れられた学生らは履修した科目の単位が修得でき、家具付きの大学寮の無償提供と共に、生活費の支給も受けられる。受け入れ期間については、現時点では二〇二三年春学期までを予定している。

●OB社長

▽山形トヨペット㈱＝鈴木政康氏（一九八九年工学部卒・五十五歳）

▽㈱エフエム福岡＝中鶴英喜氏（一九八五年法学部卒・六十歳）

▽㈱産経新聞制作＝山根俊明氏（一九八八年政経学部卒・五十八歳）

▽㈱ベイシア＝相木孝仁氏（一九九四年政経学部卒・五十歳）

●シーナカリンウィロート大学

学長らが表敬訪問

タイ・シーナカリンウィロート大学（以下、SWU）のソムチャイ学長ら一行二十八人が八月四日、駿河台キャンパスを訪れ、大六野耕作学長、小室輝久副学長（国際交流担当、法学部教授）、小西德應政治経済学部長、鈴木賢志国際日本学部長ら二十三人と意見交換を行った。加えて、本学政治経済学部とSWUの社会科学部との学生交流計画の実施に関する覚書を更新する署名式も執り行われた。

意見交換の席で大六野学長は、二〇一〇年に大学間協定を結んでから七百人以上の明大生がSWUで学んだことなどを挙げ、活発に行われてきた学生交流に感謝の意を示した。それを受けてソムチャイ学長は、「これからは教員の交流や連携も強化していきたい」とあいさつした。

さらに、「新型コロナへの対応とポストコロナの国際化に向けた取り組み」をテーマに両校の代表が登壇し、本学から小室副学長、SWUからパーンシリ副学長（教務担当）とプリット副学長（国際関係コミュニケーション担当）が両校の現状や今後の方針について報告した。その後も幅広い話題で意見交換が行われた。

署名式には小西政治経済学部長、SWUのプーム社会科学部長と両学長が登壇し、その後、両校の記念品交換、学部別協議と続いた。学部別協議では法学部、経営学部、国際日本学部に分かれ、単位互換やスタッフ間交流などに関する具体的な提案など活発な議論が行われた。

また、学部別協議に参加しない両学長を含む一行は、明治大学博物館を見学。館内では学芸員が展示品の説明を行うとともに、タイ語への同時通訳を明治大学アセアンセンター長のウィライラック特任准教授が担当した。

終了後には多くのSWU教員から「温かくもてなしていただき、明治大学の皆さまに感謝します」とお礼の言葉がかけられるなど、SWUと本学の今後のさらなる交流強化に向けて貴重な機会となった。

★シーナカリンウィロート大学

一九四九年に創立されたタイ屈指の名門国立大学。明治大学とは二〇一〇年に大学間の協力協定を締結以降、政経・理工・農・経営・情コミとの学部間協定を締結し、学生交流が行われている。二〇一三年にはキャンパス内に「明治大学アセアンセンター」が開設された。

●先端数理科学インスティテュート（MIMS）研究ブランディング事業 第七回公開シンポジウム

明治大学先端数理科学インスティテュート（MIMS）は七月二十八日、研究ブランディング事業に関わる公開シンポジウム「あやなすことわり」をオンラインで開催した。文理融合研究を推進するMIMSの世界観「Math Ubiquitous」をテーマに、二部構成のZoom・ウェビナー形式で公開、多くの参加があった。

第1部は、「ゆらぐ世界に生きる」と題した鼎談。大六野耕作学長、ジャズピアニスト、数学研究者、二〇二五年大阪・関西万博テーマ事業プロデューサーなど多才に活躍する中島さち子氏、MIMS副所長の西森拓特任教授により、多様性が結ぶラグビーとSTEAM教育の関わりや万博の展示計画などにも話題が及んだ。続く第2部は、感性・折り紙・錯視をテーマに三つの講演が行われた。荒川薫総合数理学部長は「美顔を数理科学する」と題し、人の感性や好みも反映しながら顔画像を美顔化するデジタルエステを紹介。萩原一郎研究・知財戦略機構研究特別教授は「日本文化が育んだ折紙・扇面の数理」について、折紙工学の変遷を説きつつ、〝たたむ文化〟が日本に誕生した理由を考察した。「人が錯視を起こすのは、生きるため」の演題で講演した杉原厚吉研究・知財戦略機構研究特別教授は、錯視は、人が生きるために脳が最善の選択をした結果であることを、錯視モデルを示しながら論じた。

本シンポジウムでは、一見、数学と無関係にみえるモノやコトが、実は数学の言葉によってさらに輝きを増し、応用技術につながることを分かりやすく解説し、身の回りに溢れる数学に着目する好機となった。なお、シンポジウムの内容はオンデマンド配信しており、自由に視聴可能となっている。

●校友会 明治大学戦没学徒忠霊殿慰霊祭

明治大学の戦没学徒の御霊を慰め鎮める忠霊殿慰霊祭が七月十日、新潟縣護國神社（新潟市中央区）にて厳かに執り行われた。明治大学から柳谷孝理事長、校友会から徳丸平太郎副会長および校友会新潟県支部の髙椅淑浩支部長、加えて本学校友である中原八一新潟市長など関係者約四十人が参列した。

明治大学校歌の奉納、玉串拝礼に続き、あ

いさつに立った柳谷理事長は、同支部および同神社の関係者への謝意とともに、忠霊殿に祭られている本学諸先輩方の御霊に対し、本学が昨年創立一四〇周年を迎えたことを報告。さらに、本学の学徒出陣者として少なくとも四千六百三人の出征者、三百二十四人の戦没者が確認されていることに言及し、「戦後七十七年を経過したが、令和の世になってからも繰り返される外国での戦争や国内でのテロの悲惨な現実を風化させることなく、明治大学はこれからも人類の平和に貢献し続ける大学として一層の発展を目指す」と力強く決意を述べた。

★明治大学戦没学徒忠霊殿

学業の道半ばにして学徒出陣などで戦死した明大生の戦没者を祀る霊廟。戦時中は駿河台校舎の旧図書館内に安置されていたが、新潟県出身校友の尽力により、一九五〇年に新潟縣護國神社に移された。二〇〇六年には、同神社のご厚意により、本殿脇に本学独自の「忠霊殿」を新たに建立。以後、毎年、理事長ら大学関係者が校友会新潟県支部とともに慰霊を行っている。

●駿台体育会総会・研修会

団体2部、個人3選手が表彰を受ける

明治大学体育会各部のOB・OGによる団体である駿台体育会（会長＝畠中君代氏〔硬式庭球部出身、一九六七年文学部卒〕）が六月二十二日、駿河台キャンパス・アカデミーホールで、二〇二二年度総会・研修会を開催。

総会では、明治大学から来賓として出席した体育会会長の大六野耕作学長と柳谷孝理事長によるあいさつに続き、二〇二一年度下期に活躍した団体・個人への表彰が行われた。

団体表彰では、インカレで優勝した体育会スケート部、ボードセーリング部の2部に記念の楯が贈呈された。個人表彰では、北京五輪でメダルを獲得したスケート部（フィギュア部門）の樋口新葉選手（商学部4年）と、2021世界卓球で男子ダブルス銅メダルを獲得した卓球部の宇田幸矢選手（商学部3年）と戸上隼輔選手（政治経済学部3年）の3選手に功労賞が贈られた。

その後、西山春文副学長（学務担当、商学部教授）による講演「明治大学におけるスポーツ支援と施設計画について」と、応援団による応援ステージが行われ閉会となった。

●射撃部

男女ともに総合優勝

体育会射撃部は、七月一日から三日にかけて神奈川県立伊勢原射撃場で行われた「第24回日本学生選抜スポーツ射撃競技大会」に出場し、男女ともに総合優勝を果たした。

河本理桜主将（法学部4年）は、「このような結果を残せたものの、実力を充分に発揮できた選手は少なかったと思うので、緊張感を持ちながら十月のインカレに向けて練習を積み重ねていきたい」とコメントした。

また、六月に開催された二〇二二年度関東学生スポーツ射撃選手権春季大会において、男子が総合優勝、女子が総合準優勝を果たした。この関東大会では男子は前年度の春季、秋季を通して三連覇中。

●ハンドボール部

北川選手がアジア選手権で優勝

体育会ハンドボール部の北川雄聖選手（農学部2年）が日本代表として出場した、第17回男子ジュニアアジア選手権（七月十五日～二十四日／バーレーン）で、日本が優勝した。

日本は予選ラウンドを2位で勝ち上がると、準決勝でクウェート、決勝でバーレーンに勝利し、見事男子ジュニアとして初のアジア選手権制覇となった。本大会は二〇二三年六月にドイツ、ギリシャで開催される男子ジュニア世界選手権のアジア予選を兼ねており、日本は出場権を獲得した。

北川選手は、「決勝では、今まで経験したことのないようなアウェーの中で見事勝ち切ることができた。応援してくれた方々に恩返しができて良かった」と喜びのコメントを発表した。

経済、法曹、文化など各界でご活躍の明治大学OB諸氏よ！来たれ！「連合駿台会へ！」

「連合駿台会」は、1953年に設立された「茗水クラブ」と、1964年に設立された「明友クラブ」が2002年に統合して設立された歴史と伝統あるＯＢ組織です。今年は設立から20周年という記念すべき節目の年を迎えています。

当会は、わが母校明治大学を愛して止まない諸氏で構成されています。そして母校は昨年創立140周年を迎え、2031年の150周年に向け、日本の最高学府の一角をなす大学としてさらなる躍進を続けています。「連合駿台会」はその後押しをすべく、できうる限りの協力をしていく態勢を整え張り切っております。

また、経済界、法曹界をはじめとする各界のリーダーとして大活躍されている会員同士の交流は、相互ビジネスのチャンスにもなっています。

そして、ゴルフ会、講演会、エンターテインメントイベントなど楽しい催しもたくさん企画されています。

皆さまの入会をお待ちしています。

連合駿台会会長
田村 駿
(明治大学評議員会議長)

資料のご請求はこちらまで　連合駿台会事務局　TEL：03-3296-4747　FAX：03-3296-4748　HP：https://www.rengosundaikai.jp
Email：rengousundaikai@silk.ocn.ne.jp

★明治大学広報（9月1日号）に掲載された大学への支援広告。今後も2ヵ月に1回掲載していく予定です。

◆七月例会出席者

青柳勝栄、浅井宏、安達明正、阿部倫明、同ご同伴、石川均、伊東正博、同ご同伴、井上欽也、同ご同伴、猪田忠、伊原敏雄、今村健、潮田伊佐夫、内川雄一郎、梅野修、大石哲也、大澤健太郎、大野正美、大前実之、大村託現、奥村勝広、鬼塚和也、狩野省市、栢森靖、河村博、神林光、北野大（講師）、清野明男、沓掛英二、久保聡、黒崎昭男、小井戸亮文、小島清治、小濱雅説、五味道雄、小山修、小山有彦、根田吉雄、齋藤柳光、三枝富博、坂田英夫、同ご同伴、坂本道昭、佐藤健、佐藤仁、佐野公哉、柴尾雅春、鈴木紘一、瀬戸正道、相臺志浩、髙澤徹、同ご同伴、高見克司、竹内太一、武内裕、田村駿、同ご同伴、樽見俊之、辻井知明、当山明彦、徳丸平太郎、冨田浩志、富水流孝二、中野祥宏、二井康夫、同ご同伴、西澤豊、萩原裕次、長谷川進一、畠中君代、幡谷公朗、塙英幸、馬場範夫、林威樹、深代尚夫、同ご同伴、福田和彦、藤代耕一、古本英樹、真家裕介、眞壁八郎、槇野泰、松崎優子、三浦栄治、向井眞一、村岡健、室井恵明、柳谷孝、山口政廣、山田憲典、山田朝彦、吉田光一郎、吉田信行、同ご同伴、渡邊建三、同ご同伴、渡邉能宏

【編集後記】

連合駿台会や雑誌「明治」編集委員会への参加に加え、名誉なことに評議員も拝命し、このところ明治大学により深いご縁ができている。そのため、御茶ノ水駅に降り立つことが増えている。

短大法律科に一九六七年に入学し、一九六九年に卒業した。

ご存知のようにその時期は学生運動がいちばん盛んな時で、大学はロックアウトが続き、校内中に、たて看板、垂れ幕などがあちこちに張りめぐらされ、学生たちのスピーカーからの演説が流れていた。

それが日常だった。明大の前の道路のレンガは剥がされ、投石に使用されていた。

あの頃の名残は今大学校内には一才見受けられない。しかし、ＪＲ御茶ノ水駅近辺だけはその頃とちっとも風景が変わっていない。もちろん店の入れ替わりはあるものの、街の佇まいが変わっていないのである。

御茶ノ水駅に降り立つたびにあれから五十五年にもなるのに、いっきょにあの頃に引き戻される。

しかし、明治大学そのものは、記念館がなくなり、立派な新しいシンボルとも言えるリバティタワーがそびえ立っている。これは大きな変貌である。

学生たちが思い思いの服装でキャンパスライフを楽しんでいる様子（最近はコロナでなかなかこんな様子も少なくなったが）。私たちの時代は男子はほとんど学ラン、もしくは白ワイシャツに地味なパンツ姿。しかし、楽しかったし、丁々発止の議論も当たり前の光景だった。

時代の違いを感じながらも母校を訪れるチャンスが多いことに改めて感謝の気持ちでいっぱいである。

落ち着いたら御茶ノ水駅周辺を、一つ一つ丁寧に散策して、生きてきた道も含めなぞってみたいと思う。

（平田静子）